

多年ノ勞ヲ積ムダ研鑽ニヨリテ、終ニ其真相ノ大要ヲ明カニスルヲ得、將來我國ニ於ケル斯學研究ノ指針トナルハ勿論、實用上ニ於ケル効果モ亦頗ル顯著ナルモノガアル。尙ホ同君ノ貢獻ハ、以上ノ研究ニ止マラズ、日本近海ニ於ケル潮汐、潮流ニ關スル論文ノ發表セラレタモノガ數多アリ、何レモ學術上又實用上極メテ有益ナモノデアル。

及川奧郎君ノ小惑星ノ發見ニ對スル授賞審査要旨

及川奧郎君ハ東京天文臺技師トシテ専ラ寫真觀測ニ從事シ、大正十五年以降觀測セル小惑星ノ數八十餘個、新ニ發見セルモノ十三個ニシテ、其中四個ハ確實ナル發見トシテ、此方面ノ事業ヲ統括スル在伯林アストロノミツセス・レヘンインステチユートノ承認ヲ得タリ。

小惑星ノ確實ナル發見ニハ、衝ノ前後少クモ六週間ニ互ル四回以上ノ精密ナル觀測ヲ要ス。及川君ハ、必要以上ニ之ヲ遂行シ、例ヘバ一〇八八號小惑星（一九二七年WA）ノ如キ、昭和二年十一月十七日ヨリ翌年一月二十二日ニ至ル間ニ、二十七回ノ精密ナル觀測ヲ行ヘリ。

東京天文臺ニ於ケル及川君ノ發見ト同期間ノ、他ノ天文臺ノ確實ナル發見數ヲ比較ノ爲メ記載スレバ、左ノ如シ。

日本	東京	四
露國	シメイス	四
獨國	ベルグドルフ	二
南阿	ヨハネスブルグ	二
白國	ユツクル	一
西國	バルセロナ	一
米國	ヤーケス	一

歴史的ニ小惑星發見ヲ以テ有名ナルハイデルベルヒヲ除ケバ、此ノ如ク東京天文臺ト同等ノ成績ヲ舉ケタルハ唯一ノシメイス天文臺アルノミ。

現今ノ小惑星發見ニ、少クモ口径二十五糎ノ寫眞鏡ヲ要スルコトハ、經驗アル者ノ何人モ認ムル所ニシテ、現ニハイデルベルヒ天文臺ノ如キハ、口径七一・五糎ノ反射鏡一個及ビ四十糎ノ寫眞鏡二個ヲ用キ居レリ。然ルニ、及川君ハ二十糎ノ小寫眞鏡一個ヲ用キテ、右ノ如キ好成績ヲ舉ゲタリ。此結果ハ慥カニ學界ノ驚異ニシテ、同君ノ秀絶ナル技能ト無比ノ精力トハ、之ニヨリテ明カニ示サレタルモノト謂フ可ク、又以テ本邦學術上ノ一榮譽ト爲スヲ得ベシ。